

白山の山地帯における小型哺乳類の採集記録

八 神 徳 彦

石川県白山自然保護センター

Collection record of small mammals in the mountain area of Mt. Hakusan

Tokuhiko YAGAMI

Hakusan Nature Conservation Center

はじめに

白山における小型哺乳類の亜高山帯から高山帯での採集記録は、花井 (1978), 林・子安 (2005) など、山地帯での記録は子安ほか (1993) など断片的である。白山ではヒミズ (*Urotrichus talpoides*) とヒメヒミズ (*Dymecodon pilirostris*), ハタネズミ (*Microtus montebelli*) とスミスネズミ (*Eothenomys smithii*), ヤチネズミ (*Eothenomys andersoni*), さらにシントウトガリネズミ (*Sorex shinto*) とアズミトガリネズミ (*Sorex hosonoi*), アカネズミ (*Apodemus speciosus*) とヒメネズミ (*Apodemus argenteus*) のそれぞれの近縁種の分布など興味深い課題が残されており、採集時期や場所を変えて採集調査を行い、生息データを積み重ねて行くことが重要と考える。そこで、白山の山地帯における小型哺乳類の採集調査を行った。

本報告による現地調査では、平松新一氏 (白山自然保護センター) の協力を得て実施した。氏に対しあらためて謝してお礼申し上げる。

調査地の概要

調査地は白山 (標高2,702m) の山麓の4か所である。4調査地の標高、植生 (環境) は表1のとおりである。

根倉谷園地

湿生地と隣接する林地からなり、湿生地はツルヨシやアブラガヤなど湿地性植物が繁茂し、ミヤマカワラハンノキが点在している。林地はミズナラ、クリが優占し、林床は管理のため刈り払われており、スゲなどがまばらに残っている。

市ノ瀬園地

牛首川の氾濫原にあり、オニグルミ、ヤマハンノキ、ニセアカシアなどが優占する小渓流沿いにある。近年は氾濫していないので大小の堆積礫の上に低木やアザミ類、シダ類、スゲ類などが生育しており、湿潤な環境である。

表1 調査地の標高、植生 (環境)

調査地	標高	植生				備考	
		高木	低木	草本	林床植被率 (%)		
根倉谷園地	735m	(林地)	ミズナラ, クリ		スゲ	10-30	林床は刈払われる
		(湿地)		ミヤマカワラハンノキ	アブラガヤ, ツルヨシ	60-100	湿性植物
市ノ瀬園地	800m	オニグルミ, ヤマハンノキ	コマユミ, サワフタギ	ジュウモンジシダ, スゲ		30-80	河川氾濫原植生
六万山下	990m	スギ, ミズナラ	ヒメアオキ	ササ, オシダ, スゲ		30-75	スギ, ミズナラ混交林
六万山上	1,220m	ブナ, ミズナラ	ハイイヌガヤ, イヌツゲ	ミヤマシキミ, スゲ		25-40	巨礫堆積の上に薄い土壌

六万山下

六万山はブナが優占し、ミズナラ、トチノキなどからなる広葉樹林であり、六万山下ではスギ壮齢林が混生する。林内はササ、オオバクロモジなどで被われており、土壌は比較的発達している。林内には木の株、倒木などが多い。

六万山上

ブナ、ミズナラなどの広葉樹林で、林床はササ、ミヤマシキミなどがみられる。巨礫が堆積しており土壌は比較的薄く、礫や木の根の隙間が多い。

調査方法

採集調査は2020年10月12日と11月11日に小型パンチュウトラップをそれぞれ約100個設置した。エサはピーナッツに蛹粉をまぶしたのを用い、設置翌日と翌々日に見回り回収した。採集された動物はいったん冷凍保存したのちに種名とともに、性別、体重、頭胴長、尾長、後足長、ヒミズは前足長と前足幅をノギスを用いて計測した。また、頭骨はクリーニング後乾燥標本とし、毛皮は平皮あるいは仮剥製にして白山自然保護センターで保存した。さらに、一部では冷凍保存後、筋肉の一部を無水アルコールで保存した。

結果と考察

採集結果を表2に示す。

シントウトガリネズミは、六万山下と六万山上で合計3頭採集された。白山地域では今までに標高549mの白山市一里野から白山の山頂（標高2,702m）付近まで記録されている（花井, 1978; 水野・八神, 1985; 子安ほか, 1993; 子安・林, 1997; 林・子安2005）。六万山周辺では子安ほか（1993）により、近接する釈迦新道（標高950m）で記録されており、調査地周辺の山地で広く分布していると思われた。また、子安ほか（1993）によれば釈迦新道でアズミトガリネズミが記録されているが、今回の調査では採集されなかった。

ヒミズは4か所の調査地すべてで採集され、捕獲数も多く、調査地周辺の山地に広く生息していると思われた。林・子安（2000）によれば、ヒミズは石川県では低地から白山の標高2,470mまで見られ、標高400mから上はヒメヒミズと混生分布しているとしているが、今回ヒメヒミズは採集されなかった。ヒミズはヒメヒミズより土壌の発達した地域を好み

（今泉, 1973）、白山では低山帯から亜高山帯にかけての土壌の発達しない急峻な地形が地表生活の不得意なヒミズの侵入を妨げている（水野・八神, 1988）としているが、今回の調査地では六万山上のような巨礫の堆積した土壌の比較的薄い場所でもヒミズが生息していた。

ハタネズミ亜科では、ヤチネズミは一般的に高山、亜高山の岩場や沢沿いの岩場、スミスネズミは低地から高山帯までの森林、ハタネズミは低地から高山帯の草原的な環境に生息する（阿部ほか, 2005）とされている。今回の調査では、六万山下と六万山上でスミスネズミが採集された。ハタネズミは、白山では高山帯でも生息するとされているが（子安・林, 1997）、山地帯の森林では採集されなかった。根倉谷園地の湿生地は草地の相観であるが森林の中に小面積で孤立したようにあるためハタネズミは採集されなかったと思われる。ヤチネズミも採集されず、今までに白山室堂（標高2,400m）（花井, 1978）、チブリ尾根（標高1,900m）（石川県, 1999）、蛇谷（標高1,100m）（村上・森下, 1970）、楽々新道（標高1,450m, 1,700m）（信太, 1983）などで記録されているが例が少なく今後の調査が待たれる。

アカネズミは根倉谷園地、ヒメネズミは市ノ瀬園地を除いたそれぞれ3か所で採集された。白山北稜の山地帯から亜高山帯にかけて広く調査を行った信太（1983）によれば、アカネズミの生息地の中心は山地帯下部もしくは更に下方の低山帯であり、ヒメネズミはそれよりやや高い所にあるとしており、今回の調査地周辺では両者が広く生息していると思われる。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦愼悟・米田政明（2005）日本の哺乳類 [改訂版] 東海大学出版会, 128-131.
- 花井正光（1978）白山高山帯の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告, 4, 83-92.
- 林 哲・子安和弘（2000）石川県におけるヒミズ類の分布. 石川県白山自然保護センター研究報告, 27, 29-36.
- 林 哲・子安和弘（2005）白山高山帯の哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告, 32, 45-53.
- 今泉吉晴（1973）富士山麓・青木ヶ原の地下生活者. アニマ9, 平凡社, 4-20.
- 石川県（1999）石川県の哺乳類, 3-104. 石川県環

境安全部自然保護課。
 子安和弘・林 哲（1997）白山高山帯における野生
 小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告,
 24, 23-32.
 子安和弘・原田正史・野崎英吉（1993）石川県白山
 麓におけるトガリネズミの捕獲記録. 石川県白山
 自然保護センター研究報告, 20, 33-34.

水野昭憲・八神徳彦（1985）ほ乳類. 白山高山帯自
 然史調査報告書, 107-111. 石川県白山自然保護
 センター.
 村上興正・森下正明（1970）白山における中・小哺
 乳類について. 白山の自然, 石川県, 330-334.
 信太照夫（1983）白山北稜の小哺乳類. 石川県白山
 自然保護センター研究報告, 9, 57-66.

表2 採集結果

番号	種名	採集地	採集日	採集者	性別	体重(g)	頭胴長(mm)	尾長(mm)	後足長(mm)	前足長(mm)	前足幅(mm)
1	ヒメネズミ	根倉谷園地 (湿地)	2020.10.13	八神徳彦	♀	17.2	86.0	89.7	17.0		
6	ヒミズ	根倉谷園地 (湿地)	2020.10.14	〃	♂	22.6	95.9	36.9	15.0	11.6	6.1
7	ヒミズ	根倉谷園地 (湿地)	2020.10.14	〃	♀	19.8	89.5	36.4	14.6	10.1	5.8
4	ヒメネズミ	根倉谷園地 (林地)	2020.10.14	〃	♀	14.1	74.0	86.0	18.2		
5	ヒミズ	根倉谷園地 (林地)	2020.10.14	〃	♀	15.8	84.1	34.0	15.7	9.9	5.7
2	アカネズミ	市ノ瀬園地	2020.10.13	〃	♀	38.9	110.2	100.1	23.0		
3	ヒミズ	市ノ瀬園地	2020.10.13	〃	♂	22.2	90.5	35.0	15.7	10.9	6.3
8	ヒミズ	市ノ瀬園地	2020.10.14	〃	♂	20.5	85.3	38.0	14.8	10.0	6.0
9	ヒミズ	市ノ瀬園地	2020.10.14	〃	♀	20.7	90.8	36.1	16.0	10.6	5.9
1	トガリネズミ	六万山下	2020.10.12	〃	♀	4.1	55.6	55.6	11.2		
2	トガリネズミ	六万山下	2020.10.12	〃	♂	5.4	58.4	50.5	12.0		
3	スミスネズミ	六万山下	2020.10.12	〃	♀	27.2	102.1	47.6	17.0		
4	アカネズミ	六万山下	2020.10.12	〃	♂	29.5	102.1	85.9	24.9		
5	ヒミズ	六万山下	2020.10.12	〃	♀	15.5	83.0	30.0	15.0	9.2	5.0
6	ヒミズ	六万山下	2020.10.12	〃	♂	18.7	95.5	36.1	16.8	11.1	6.0
18	アカネズミ	六万山下	2020.10.13	〃	♀	29.0	101.1	82.5	24.1		
19	ヒメネズミ	六万山下	2020.10.13	〃	♀	14.6	77.2	84.4	18.0		
20	スミスネズミ	六万山下	2020.10.13	〃	♀	25.9	117.0	56.0	17.4		
21	ヒミズ	六万山下	2020.10.13	〃	♀	13.6	-	33.5	14.9	10.3	5.5
22	ヒミズ	六万山下	2020.10.13	〃	♂	15.2	-	34.0	14.5	9.6	5.1
23	ヒミズ	六万山下	2020.10.13	〃	♀	15.4	89.5	35.0	15.1	9.7	4.9
24	ヒミズ	六万山下	2020.10.13	〃	♂	16.1	85.0	34.0	14.6	10.6	5.1
7	トガリネズミ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	4.1	57.4	52.0	11.6		
8	スミスネズミ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	24.9	104.0	55.4	17.4		
9	アカネズミ	六万山上	2020.10.12	〃	♂	43.1	113.0	101.3	24.5		
10	ヒメネズミ	六万山上	2020.10.12	〃	♂	13.4	77.2	84.8	18.1		
11	ヒメネズミ	六万山上	2020.10.12	〃	♂	17.3	82.4	84.1	18.9		
12	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	14.7	90.3	31.9	15.2	10.1	6.0
13	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	15.2	85.8	36.0	14.6	10.5	6.2
14	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♂	15.8	90.6	34.9	15.0	9.6	5.8
15	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	17.1	91.6	39.9	15.0	10.7	6.4
16	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♂	15.6	91.9	35.0	15.5	10.2	6.0
17	ヒミズ	六万山上	2020.10.12	〃	♀	16.5	91.0	38.3	15.9	10.7	6.6
25	ヒメネズミ	六万山上	2020.10.13	〃	♀	20.4	88.9	96.5	19.8		
26	ヒミズ	六万山上	2020.10.13	〃	♀	14.6	84.7	36.1	14.2	10.1	4.7
27	ヒミズ	六万山上	2020.10.13	〃	♂	被食	82.5	34.3	15.1	10.7	5.9